みんなのスペース

ぼくのゆめ

大きくなったら郵便局のお兄さんになって、みんなの手紙を届けてあげるんだ。

ほりあい こうき くん
（豊間根保育園・６歳）

古里への便り⑳

寒風干しサケやハラッコで、新年を迎えられました山田町の皆さま、明けましておめでとうございます。

本年は、在京と在郷の交流を大いに図り、山田町が明るく元気のある町になることを願い、皆さんとともに考えていきたいと思っております。今、町としていろいろな自然環境問題に取り組んでいる中、海をきれいにするための一環として植林事業などを推進していますが、これは人類が生活する上で大切なことであり、ぜひ山田町から全国に発信できる事業であるよう、町民の皆さまにも進んでご協力されることを願っております。

昨年、ふる里会は岩手県人連合会の事業にも協力、参加しました。九月には有楽町で献血活動に取り組み、十月には千葉県の柴カントリーで開かれたゴルフ大会に出場。大会は五十五団体（二百二十四人）が参加して行われ、ふる里会からは四チーム（十八人）が出場し、準優勝の成績であったことをご報告致します。

平成二十年には岩手県内で、在京と在郷の交流ゴルフ大会を計画しており、また本年度のふる里会も、七月八日（日）に〝東京　中野サンプラザで集い合う予定〟ですので、在郷の皆さまも東京見物をしながらぜひ参加し、山田の匂いをお運びいただき、大いに交流が深まればと考えています。

町民の皆さまのご健勝を祈念し、本年もよろしくお願い致します。

ふる里山田同郷の会会長
佐々木 道 義

ゴルフ大会で準優勝に輝いた皆さん。左から佐藤正七、佐々木道義、佐々木保彦、菊地宏夫《敬称略》

投書

どんなことでも結構です。どしどしお寄せください。

山田よいとこ好きな町（七）

新年おめでとうございます。

続、中国研修生（十月一日号の続き）――。あの激しかった戦争中に軍歌一色のころ、中国女性が戦渦に巻き込まれ悲しみの旅に出るこの歌を、その苦難を思いやり、私たち日本の若者が胸詰まらせて歌っていたのですよ――と言って、「この歌の三番にある『ニャンニャン祭り』とは、どんな祭りですか」と尋ねたら、「分からない」と言われた。

そう言われて考えれば、一口に中国といってもあまりにも広い国だ。彼女たちは大連だそうだが、満州だけでも広い。北京、上海、南京など、地区それぞれの文化圏だけでも大きな違いがあるだろう。大連の彼女たちに無理なことを尋ねてごめん。

日中戦争前に流行した中国の歌といえば、ご存じ「支那の夜」や「蘇州夜曲」、ディックミネの「上海ブルース」などがあり、よくこれを口ずさみ、支那（中国）のことを想像たくましく思い浮かべ、夢見る思いに浸っていた。何とも平和なものであった。

時代はやがて満州事変へと進む。そして間もなく日支事変へと。「拝啓、御無沙汰しましたが、僕も益々元気です…」「除州除州と人馬は進む、除州いよいか住みよいか…」などと軍歌も戦線もエスカレートしていった。そしてついに太平洋戦争へ。「椰子の葉茂る珊瑚礁、砲さえ焼ける炎熱も、赤道越えてなお遥か…」と、いく百万人の犠牲を払って、大日本帝国はついに滅びた。

中国の為政者たちは、大陸的な太っ腹。終戦後、蒋介石、毛沢東、周恩来たちは、日本の悪かったのは、一部の軍国主義者で、一般の日本国民に罪はないとした。いわゆる「区分論」というものだが、おのずと頭の下がる思いがする。そして今では、何事もなかったかのように、こうして中国の若い人たちとも屈託のない明るく楽しい会話もできるようにまでになった。とはいえ、思えばあの悲惨な時代にどっぷりつかり、今、生きながらえている老いの身の心境には複雑なものがある。先の大戦で命を失った人々のことを思えば断腸の思いである。

歴史家は言う。「歴史を学ばない者や国は滅びる」と。いわゆる「温故知新」だ。いずれにせよ「世界のどの国も争うことなかれ」である。歌は世につれ、世は歌につれという。移ろいゆく世のはかなさ、花の移ろいに人生の色を重ねて、会うは別れのその始めとか。一期一会の中国の彼女たちに幸多かれと念じつつ送別の筆を置く。

ペンネーム・山田北州
（山田・85歳）

園児の劇から教わったこと

園庭の樹木は裸木になり、初冬を告げていた。十二月三日、保育園の生活発表会にホールは満席。園児たちは合奏、遊戯、劇と役になりきって、はつらつとしてかわいかった。劇「鮭の大冒険」――。春先に稚魚は川に離され、大海に北の果てまで荒波や大きい魚に出合いながらも、四年の月日を生き延びて故郷織笠川に帰る。園児たちの構成劇に感動した。

毎年、九月に入ると橋の上から「鮭があがっていだーべーが」と川をのぞいているだけの自分の無頓着さに気が付いた。劇などで楽しませていただいたほかに、園児たちから生きる厳しさも教えられた。諸先生方、ありがとうございました。

菊地サカヱ（織笠・71歳）

◇　◇　◇

新巻も切身でほしい今の娘は
手ぬき手ぬきの波にのりける
大町テイ子（大沢・？歳）

堤防の工事も進まぬありさまに
早期完成津波が恐い
大川ヒメ子（大沢・62歳）

見えぬ空トンビの声が輪を描く
同じ時間を生きてる不思議
菊地孝進（船越・85歳）

年の瀬のチャリティーショーで
老いの身を癒してくれし
幼子の舞
齋藤忠雄（船越・81歳）

冬至待ち窓辺にひとつ南瓜かな
福士順子（八幡町・68歳）

元旦の初日の光輝かし
今年こそはと良き年願う
ペンネーム・夢子
（田の浜・65歳）

亥年だぞ幸いあるかおらが町
佐藤兼男（荒川・？歳）

イラスト

はまなす学園

町にシクラメンを贈る

はまなす学園（佐々木建彦園長・利用者50人）から、町にシクラメンが贈られました。このシクラメンは同学園が就労意欲の向上と社会的自立を目的に栽培したもので、昨年３月から利用者の皆さんが丹精込めて育ててきたものです。12月14日に利用者など７人が役場に10鉢を持参し、沼崎喜一町長に手渡しました。沼崎町長は「ありがとうございます。大切に飾らせていただきます」とお礼を述べました。贈られたシクラメンは、町長室をはじめとした役場庁舎の各所に飾られ、訪れた方々の目を楽しませています。